



## 「研究の秋 授業づくり研修会」

教育研究センターで行っている学力向上に向けた3つの授業づくり研修会での学び合いが盛んです。小中が連携して学びの連続性を考え授業改善に取り組んでいます。

1つ目の外国語教育研修会では、11月7日に築館小6年生「Unit 6 Let's think about our food」の授業が木村龍之介先生とALTのアシュリー先生のTTで行われました。児童が英語の授業を楽しみにしていて積極的に言語活動に参加する姿が見られたり、忌憚なく自己表現し合う様子が見られたりしました。また、参観から事後検討会まで中学校のALTが参加したことで、多様で刺激のある意見交流ができました。中学校区内で小中連携が重要であり、今後も協働の機会を定期的に持つことを確認し合いました。

11月14日には、金成小中学校の7学年「Unit 8 A Surprise Party」の授業が伊藤優一先生と小学校の佐藤斗和先生のTTで行われました。小学校で扱うチャンツ系教材を中学生向けに活用するなど、指導法の継続性という点で連携を意識した授業づくりが見られました。また、中学生が英語を使ってレポートする姿を映像で小学生に届けるというチャレンジのよさや、ALTと作成したピクチャーディクショナリーはネイティブの発音が聞けるなど使いやすさを感じさせるものがありました。事後検討会では、小中連携のモデル校としてリーダーシップを発揮し、今後とも提案・発信してほしいとの意見が寄せられました。

2つ目の算数・数学授業づくり研修会では、11月8日に栗原西中学校の2年生「平行と合同」の授業を三浦拓也先生が代表授業として行いました。栗原西中学校の「学び合い」という学習形態を全員で参観したことにより、「学び合い」と「教え合い」の違いや、全員の目標達成を目指す授業と「学び合い」の関係など、様々な視点から多様に意見交換することができました。事後のアンケートには「自分の考えの根拠を明らかにすることを意図して生徒が学習に取り組んでいる姿が素晴らしい(小学校)」「同じ中学校チームとして導入の仕方、学び合いのさせ方など参考になった。学び合いと教え合いの違いが曖昧になっていたので、自分でも意識して指導に当たりたい(中学校)」などがありました。教師と生徒の関係性や担任の称賛の声掛けの良さ、授業プランシートのキーワードが「整合」であり、ぶれない授業づくりに有効であるなどの感想も寄せられました。

3つ目のICT活用授業づくり研修会では、11月7日に宮野小2年生の国語「なかまになることば」の授業を早川幸伸先生が行いました。教師と児童との間に信頼関係があり、教師の発問や指示に対して集中して取り組もうとする姿が見られました。ICTの活用では、2年生ながら仲間になる言葉集めをキーボード入力で行ったり、仲間になる言葉とまとめる言葉を通して表にまとめ、ロイロノート上で共有し様々な友達の取組を参考にし合ったりするなどのよさが見られました。参観者からは、グーグルワークスペースの活用や言葉が浮かばない児童へのネット検索の必要性などが出されました。

今後、外国語教育研修会が11月29日に高清水小、12月18日に栗駒小で行われます。またICT活用授業づくり研修会が11月30日に鶯沢小で行われます。



# 授業プランシート (数学)

授業時 日	令和5年11月8日(水)	学年 単元名	2年 「平行と合同」(7/15)
----------	--------------	-----------	---------------------

(構想・立案の流れ)

(本時の授業の流れ)

①本時のねらい  
いろいろな角の大きさを、補助線や根拠となる図形の性質を明らかにして求めることができる。

②ねらいを達成した子どもの姿 (評価規準)  
いろいろな角の大きさを求める際に、補助線を引くことで根拠となる角や平行線の性質といった図形の性質を見出し、利用することで角の大きさを求めることができる。  
評価規準： 知識・技能

③評価問題  
次の $\angle x$ の大きさを求めなさい。

(1)

(2)

(1)  $51^\circ$   
点Pを通り、直線lに平行な線を引く。平行線の錯角は等しいことから、 $\angle x + 33^\circ = 84^\circ$  になるため  $51^\circ$  になる。

(2)  $110^\circ$   
点Pを通り、直線mに平行な線を引く。平行線の同位角と錯角は等しいことや、三角形の外角の性質から  $\angle x$  は  $40^\circ + 20^\circ + 50^\circ$  で  $110^\circ$  になる。

④想定しているまとめ  
補助線を引き、図から平行線の同位角や錯角が等しいことや図形の性質を見出すことで、いくつかの方法で角の大きさを求めることができる。

⑤想定している比較・検討

1. これまでの角の大きさを求めるときには、どのような角や平行線の性質を利用してきたか。  
2. いろいろな角の大きさを求めるときに、これまで学習したことがらをを使用するにはどうすればよいか。

取り上げたい考え

- 三角形の内角の和・多角形の内角の和・多角形の外角の和・対頂角や平行線の同位角、錯角は等しい。
- 補助線をひいて求めやすくする。
  - 五角形になる。
  - 同位角や錯角が等しくなる。
  - 三角形の外角の性質が使える。
  - 点Pを通り、直線lに垂直な線を引くと直角三角形ができる。
  - $60^\circ$ の頂点から点Pまでの線分を点Pの方向に延長する。
  - $50^\circ$ の頂点から点Pまでの線分を点Pの方向に延長する。

⑥想定している学習課題・めあて  
角の大きさを工夫して求めるにはどうしたらよいか。  
 $l//m$ のとき、 $\angle x$ を求める方法にはどんな方法があるだろうか。どうすればこれまで習った図形の性質は使えるだろうか。

⑦学習問題  
右の図で $l//m$ のとき、 $\angle x$ の大きさを求めてみましょう。一つの方法で求めることができたら、ほかの方法でも求めてみましょう。

**【板書貼り付け】**

角の大きさを工夫して求めるにはどうしたらよいだろうか。

右の図で $l//m$ のとき、 $\angle x$ の大きさを求めてみましょう。一つの方法で求めることができたら、ほかの方法でも求めてみましょう。

**Aさんの求め方**

点Pを通り、直線に平行な直線を引く。よって平行線の錯角は等しいから  $60^\circ + 50^\circ = 110^\circ$

**Bさんの求め方**

$50^\circ$ の頂点から点Pの方向に延長線を引く。よって平行線の錯角は等しいから、 $\angle x$ は  $50^\circ + 60^\circ = 110^\circ$

**まとめ**

補助線を引き、図から角や平行線の性質を見出すことで、いくつかの方法で角の大きさを求めることができる。

次の $\angle x$ の大きさを求めなさい。

(1)

(2)